あつぎこどもの森クラブ

くぬぎ便り

第17号

あつぎこどもの森の田んぼ　（農業プロジェクト）

コメが収穫できた

あつぎこどもの森公園の中心部に無道谷（ぶどうやと）がある。公園が整備されることになり、この谷戸を生物の生息環境を保全する重要なエリアとして復活させるとともに、子どもたちの稲作体験の場として活用していくために開園に合わせて農業プロジェクトがスタートした。

この谷戸はイモリ、ホトケドジョウ、ホタル、トンボなど在来の水辺の生き物や昆虫類が多く棲息しているため、無農薬での水稲栽培を継続してきたが、稲穂が色づくと夜な夜な現れるシカとイノシシに苦しめられてきた。

今年は頑丈な鉄パイプに鹿よけネットを張ってさらに周囲に鉄の網を全周に張り巡らせて、ようやくシカとイノシシの侵入を防ぐことができ、開園４年目にしてコメ(コシヒカリ）の収穫ができた。

６月９日撮影

田の水を引く

無道谷はウタリといって水はけの悪い湿田で膝上まで入ってしまう。およそ50年前までは馬場地域の方々が耕作し、作業はマンノウを使ってアラオコシ、クロツケ、シロカキ、すべて人力でしなければならなかった。ウタリでは子どもの稲作体験の場としては支障があるので、今年から園路上部の、まず1枚の湿田の水を抜き田面を固める作業に取りかかった。そこで畦の脇に溝を掘り竹板を差し込んで田面の水だけを溝に流し、さらに泥の流失を防ぐ方法をとった、落水から翌年の田起しまでの期間は田を干すことに挑戦した。

改良前：田んぼ表面の水しか抜けないのでウタリ状態になっている。

排水口が田表と同じ高さになっている

竹板を差す溝を掘る作業中

改良後：竹板で壁を作り土留をして地中の水だけを抜いて田んぼの土を固めた。

長さ70㎝に切った太い竹を8～10枚くらいに割って一列に木槌で打ち込んでいく根気のいる作業だった。クラブのメンバーの協力で当初の計画部分は作業ができ、効果も表れて写真のように耕耘機を入れて作業ができるようになった。

田を干している期間も竹板と畦の間に水が残るように排水管の角度を調節し、生きものが生息できる環境を保っている。

里山の象徴―谷戸田と開墾地

クラブでは、こどもの森公園の無道谷（ぶどうやと）の湿田を更に改善し稲作体験の場として拡張するとともに水辺の生き物の棲息場所としても環境整備を行っていく予定。現在冬期にカエルの産卵の場として田に水をひく作業を行い、様々な生き物の棲息地として、また人との共生の場として谷戸田を復活していこうと考えている。こどもの森の谷戸田の両側にはアラクといわれる開墾地があり、地域の方々が戦後の食糧難の時期に傾斜の緩やかな雑木林を開墾し作物を作っていた。現在、痕跡のある一部を開墾し、里山体験の場として整備をすすめている。生い茂ったアズマネザサを刈り取り、日が当たるようになったところではキンランがあちこちで見られるようになった。人の手を加えることによって眠っていた種子が芽生えてくる。次世代を担う多くの子どもたちには体験を通して困難に立ち向かう力と感性を磨いてほしいと願っている。

冬水田んぼ

キンラン

モクズガニ

ハネナガイナゴ

ショウジョウトンボ

ヤマアカガエルの卵塊

カルガモ

アラク（開墾地）

あつぎこどもの森公園・きょうこのごろ

お米の収穫

9月29日に稲刈り、はさがけをし、天日干しをして10月27日に脱穀をした。

地層の学習

１１月６日、荻野小学校の６年生がこれを見学しに訪れた。地層については管理棟のパンフレットで詳細がわかる。

森の工作教室

10月18日　ひょうたんカボチャやドングリ、落ち葉、枯れ枝などでハロウィンの飾りを作った。

落ち葉で焼き芋

11月13日　森で集めた落ち葉でサツマイモを焼いて食べた。煙がすごかった、煙の臭いを初めて嗅いだ。

コラム；あつぎこどもの森公園の自然

この欄ではあつぎこどもの森公園で見かける自然界の動植物についてその特徴や生い立ち、効能など解説していただきます。また見方を変えたり、ミクロの世界をとらえた「あっと驚くふしぎ大発見」なども掲載して参ります。

オツネントンボ

2019年12月31日、年の瀬に公園を訪れたところ、東屋付近の草むらの中に羽ばたく昆虫を目撃しました。近寄ってみると、その正体はアオイトトンボ科のトンボ、オツネントンボでした。一般的なアキアカネやシオカラトンボなどは卵やヤゴの状態で越冬しますが、このオツネントンボとホソミオツネントンボ、ホソミイトトンボの３種だけは成虫の状態で枝などに掴まり越冬します。オツネンの由来は越年（おつねん）から来ています。ホソミオツネントンボは、前翅と後翅の縁の太い紋が重なりますが、この写真の個体は重なっていないためオツネントンボだと判別できます。この日の神奈川県の最高気温は20℃を越しており、12月の平均最高気温の13℃を大きく超えていました。通常は春を迎えると複眼を茶色から婚姻色の青に変え、交尾の相手を求め飛び回わります。その後田んぼや休耕田に産卵しますが、越冬中だったこの個体は高温によって春が来たと勘違いして活動を始めてしまったようです。

野中俊吾

体験イベント日程表

新型コロナウイルス感染症はその収束がなかなか見えませんが、イベント自粛の関係上、総会でお知らせした行事、イベントなどが実施できなくなっております。行事予定などの確認は公園ホームページをご活用いただきますようお願いいたします。なおフェイスブックあつぎこどもの森クラブサイトにも掲載しております。

ト山本俊太作

イベントの日程・内容は天候、生育状況などの影響で、直前に変更になる場合があります。
参加前に必ずホームページなどで確認してください。

電話：046-210-3433
受付時間：10月～3月 9:00～16:00
メール：atugikodomonomorikurabu@gmail.com
HP：https://atsugikodomonomori.com/

くぬぎ便り 第17号

発行：2020年12月 27日
編集 制作 あつぎこどもの森クラブ 広報
発行責任者 井上 允
事務局 〒243-0202 神奈川県厚木市中荻野916-2（管理棟）
TEL046-210-3433